

製品名: ACOT8 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab06518**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	36kDa

抗原情報

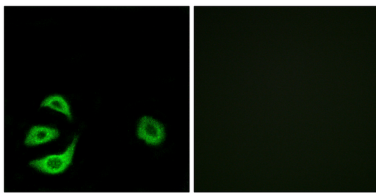
遺伝子名	ACOT8 ACOT8; ACTEIII; PTE1; PTE2; Acyl-coenzyme A thioesterase 8; Acyl-CoA thioesterase 8;
別名	Choloyl-coenzyme A thioesterase; HIV-Nef-associated acyl-CoA thioesterase; PTE-2; Peroxisomal acyl-coenzyme A thioester hydrolase 1; PTE-1; Peroxisomal Ion
遺伝子 ID	10005.0
SwissProt ID	O14734
免疫原	抗血清はヒト ACOT8 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 131-180

背景

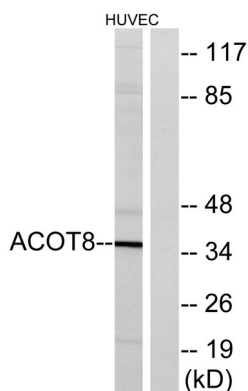
この遺伝子によってコードされるタンパク質はペルオキシソームチオエステラーゼであり、脂肪酸の生成よりも酸化に関与していると考えられる。コードされるタンパク質はヒト免疫不全ウイルス 1 型タンパク質 Nef に結合し、T 細胞における Nef 誘導性の CD4 ダウンレギュレーションを媒介する。[RefSeq 提供、2010 年 10 月]、触媒活性: クロロイル CoA + H(2)O = コール酸 + CoA。、機能: アシル CoA チオエステラーゼは、アシル CoA を遊離脂肪酸とコエンザイム A (CoASH) に加水分解する酵素群であり、細胞内アシル CoA、遊離脂肪酸、および CoASH のレベルを調節する能力を有する。Nef 誘導性の CD4 ダウンレギュレーションを媒介する可能性がある。ペルオキシソームにおける主要なチオエステラーゼ。胆汁酸 CoA 基質 (ケノデオキシクロイル CoA など) を巡って BAAT (胆汁酸 CoA: アミノ酸 N-アシルトランスフェラーゼ) と競合する。中鎖脂肪酸アシル CoA を優先的に選択する (類似性による)。ペルオキシソーム増殖の代謝調節に関与する可能性がある。誘導: ペルオキシソーム増殖因子 (クロフィブラートなど) によって、ペルオキシソーム増殖因子活性化受容体 (PPAR) を介して調節される。類似性: C/M/P チオエステル加水分解酵素ファミリーに属する。サブユニット: HIV-1 Nef と相互作用する。組織特異性: T 細胞株で検出される (タンパク質レベル)。普遍的に存在する。、

研究分野

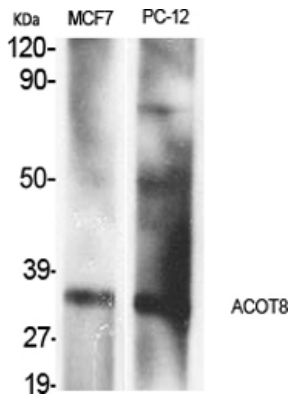
画像データ



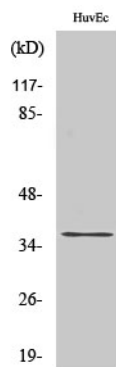
ACOT8 抗体を用いた A549 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



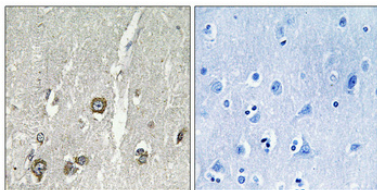
ACOT8 抗体を用いた HUVEC 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。



ACOT8 ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析



ACOT8 ポリクローナル抗体を用いた HuvEc 細胞のウェスタンブロット解析



パラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4°C、一晩) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。